

鉄血勤皇隊とは

太平洋戦争末期の沖縄において、防衛召集により動員された日本軍史上初の14～16歳の男子学徒による少年部隊。沖縄師範学校を始めとする、沖縄県内の沖縄本島から八重山までの12校の学校から1780人動員され890人が戦死しました。

具体的な任務は、陣地構築、伝令や通信、さらに戦車への斬り込み攻撃を命じられたものもいたそうです。戦車への斬り込み攻撃とは、木箱に10キロの黄色火薬を入れた「急造爆雷」を背負って戦車に体当たりをして爆破する戦法。